



の 話

大洗町企画室

白土 芳夫

このところ、温泉ブームで湧き立っており、殊に若い女性の間では、露天風呂に人気が集まっている。

私もブームに乗って……と言いたいところだが、それに先立つこと10年程前から、職場の仲間と夏季休暇を利用して、温泉巡りの旅を楽しんでいる。それも、思いっきり鄙びた温泉と決めている。

例えば、栃木県の奥鬼怒温泉郷。東武鉄道鬼怒川温泉駅からバスで2時間。終点の女夫淵温泉から鬼怒川の源流を1時間ほど遡ると、「八丁の湯」がある。ここは、“ランプの宿”として名が知られている。裏山のあちこちに湯が噴き出し、山肌から無雑作に「樋」を引っぱって、露天風呂に湯泉を送っている。一汗流すべく、入浴を所望する。滝を見ながらの露天風呂は、山の野趣満点である。

疲れのとれたところで、手白沢温泉に向かう。八丁の湯と手白沢の間のブナ平の木立がじつに美しい。ブナの木とあすなろの梢を通して、下草の淡い緑が木洩れ日に光るさまは、名画を見るような優しさを感じさせてくれる。

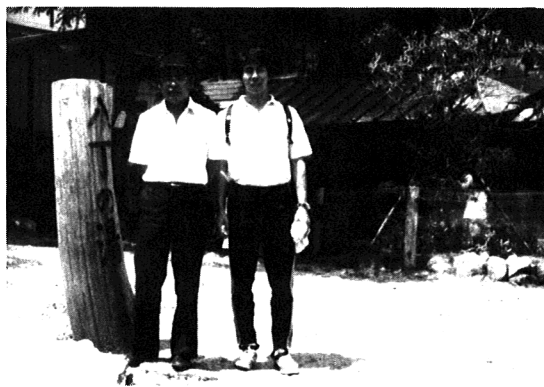
ブナ平からひと谷周りながら下ると、カツラの木立のくぼみに手白沢の宿が見えて来た。宿というよりは、山小屋といった方が当たっている。

裏の露天風呂は、木の樋から湯が溢れ、その溢れた湯が草むらに消える。まさに、自然そのまま。湯ふねの底まで見えるきれいな湯である。原生林を渡って来る爽やかな風が、湯上がりの火照った身体に心地良い。

部屋に戻ってビールを飲む。窓の外は、深緑。新聞もラジオもテレビもない。誰かの歌にあるような世界。最近、ようやく電気が通ったとか……。

夕方になると、発動機を回して電燈を灯す。泊まり客が食事をする大広間以外は、回りの物がようやく判別できる程度の明りしかない。

食事を済ませて、部屋に戻る。ほの暗い電燈の



向かって右が筆者

下で横になっていると、いつの間にか寝入ってしまった。気が付くと、夜中であった。思い出したように風呂に行く。深閑と静まり返った山の宿で、1人露天風呂に浸る。何物をも超越した世界……まさに、仙境。

翌朝、雨が屋根を叩くような音で目を覚ます。雨を確認しようと、起き出して窓外に目をやる。山特有の朝霧に包まれてはいるが、雨はない。沢の音を雨と間違ひしたようだ。窓を開けると、部屋いっぱい山の冷気が入って来た。カッコウが鳴いている。三たび、風呂に行く。

女夫淵から1時間半の歩きという不便さが、自然をそのままに残してくれたのだろう。

こんな旅を、毎年、3泊4日の日程で続けている。1泊2日では慌ただしいし、2泊3日は、“もう1泊したい。”という気持が残る。3泊4日だと帰郷心が湧いて来る。

「仕事」を忘れて、のんびりと風呂に浸り、昼寝と読書三昧の4日間。

大いなる心身のリフレッシュ。

忙中閑あり。たまには、こんな目的のない旅も如何なものでしょう。温泉の効用もあります。帰宅してから半月くらいは、肌がピカピカです。

ただし、あまり入りすぎると、湯疲れでエライ目に遭うこととなります。念のため……。

【新着資料案内】



【新着資料案内】

この資料は、昭和62年6月中に到着した主なものです。ご利用下さい。

閲覧室 本庁舎地下1階 TEL 0292-21-8111(内線2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
中央省庁関係			
昭和60年国勢調査報告第3巻 第2次基本集計結果 その2 都道府県・市区町村編 14県分	総務庁	茨城の観光レクリエーション現況	観光物産課
地域メッシュ統計の概要	〃	昭和62年度事業概要	水海道産業技術専門学院
昭和60年国勢調査報告別巻 我が国の人口集中地区	〃	昭和62年度事業概要	三和 〃
全国編ミニ統計ハンドブック 昭和62年	〃	昭和62年度事業概要	下館 〃
家計調査参考資料第50号	〃	茨城の企業 大学生の就職ガイド	職業安定課 (社)茨城県雇用開発協会
労働力調査特別調査報告(速報)	〃	新流通時代の課題と対応	東京農産物流通 指導センター
昭和59年全国消費実態調査報告 第10巻 我が国の家計 その2 資料編	〃	昭和62年度農業改良普及計画書	竜ヶ崎地区農業改良普及所
昭和62年版交通安全白書	〃	昭和62年度農業改良普及計画書	常北地区 〃
昭和62年版環境白書	環境庁	茨城の水産業	漁政課
昭和61年度版過疎対策の現況	国土庁	霞ヶ浦北浦の水産	霞ヶ浦北浦水産事務所
昭和62年版国土利用白書	〃	霞ヶ浦北浦における養殖業の現況(昭和60年)	〃
昭和62年版防災白書	〃	霞ヶ浦北浦水産加工業の現況	〃
人口問題研究第182号	厚生省人口問題研究所	昭和62年度事業計画概要書	農地管理課
都道府県別将来推計人口 ―昭和60～100年間毎5年― 昭和62年1月推計	〃	明日のいばらきを創る ―昭和62年度茨城県土木概要―	監理課
人口統計資料集	〃	昭和62年度茨城県水防計画	河川課
昭和60年工業統計表産業編	通商産業省	日立港統計年報 昭和61年	日立港湾事務所
昭和61年ゴム製品統計年報	〃	茨城の都市計画	都市計画課
昭和61年碎石統計年報	〃	街とみどりのハーモニー ―茨城県都市緑化推進計画― ―茨城県都市緑化推進計画策定の手引き―	〃
昭和61年プラスチック製品統計年報	〃	昭和61年度事務事業の概要	〃
昭和61年鉄鋼統計年報	〃	都道府県関係	
昭和61年窯業・建材統計年報	〃	昭和59年度市町村民所得	福島県統計調査課
昭和61年化学工業統計年報	〃	情報公開事務処理の手引	埼玉県公文書センター
茨城県関係		千葉県行政資料増加目録 昭和61年度	千葉県文書課
昭和60年度県政モニターの記録	広報課	新潟県人口移動	新潟県統計課
行政資料目録追録(第2号)	総務課	給与と労働時間と雇用	福井県情報統計課
茨城県職員録	人事課	昭和61年鉱工業指数年報 (昭和55年基準)	佐賀県統計電算課
財政状況	財政課	昭和61年賃金労働時間雇用	大分県統計課
昭和62年第1回茨城県議会定例会議案	〃	昭和59年度大分の市町村民所得	〃
'86水害台風10号	消防防災課	公社・会社・団体等関係	
企画部の概要 昭和62年度	企画調整課	公営企業金融公庫三十年史	公営企業金融公庫
茨城県土地利用基本計画 (計画書,計画図,(参考)総括図)	地域計画課	アルコール専売事業五十年史	(社)アルコール協会
昭和62年度事業計画書	大宮地方福祉事務所	昭和61年度図説漁業白書	(財)農林統計協会
昭和61年度業務概要	中央児童相談所	昭和61年度図説農業白書	〃
昭和61年度業務概要	土浦保健所	データでみるいばらき 昭和62年版	(財)常陽産業開発 センター
茨城県中小企業経営指標(昭和61年度版)	経営助成課	地域別指数の長期時系列整備 昭和38年～57年	(財)産業研究所

経 済 動 向

国内の動き

●GNP、61年度2.6%増に

経済企画庁は、16日、1～3月の国民所得統計速報(季節調整済み)を発表した。それによると、個人消費など内需の堅調と輸出の伸びに支えられ、国民総生産(GNP)は、実質で前期比1.2%増、年率換算した瞬間風速で4.9%増と、60年4～6月の5.7%増以来、7期ぶりの高い伸びとなり、昨年来続いてきた円高不況のトンネルにも出口が間近いことを示唆する内容となった。経企庁は、「数字を見る限り、景気は底入れしたと判断できる」(調整局)として

●企業の夏休み(製造業7.4日、非製造業4.6日)

今年の企業の夏休みは製造業で平均7.4日、非製造業で同4.6日になることが労働省が27日まとめた「夏季連続休暇実施予定状況調査」でわかった。調査は東京に本社がある東証一部上場企業と地方主要企業の1,342社(製造業716社、非製造業626社)が対象。まとめによると7～8月の2ヵ月間に3日以上連続休暇を設ける企業は1,027社で全体の76.5%、このうち今年から新たに連続休暇を設ける企業が12社ある。製造業では90.9%が夏休みを実施するのに対し、

●完全失業率、最悪の3.2%

完全失業者数は191万人で、前年同月比でも29万人増で最悪の数字。内訳は男子112万人、女子79万で、前年同月に比べ男子は18万人、女子は10万人増加した。離職理由別では解雇、倒産など自発的でない理由による離職者が64万人(前年同月比12万人増)、自発的離職者が63万人(同4万人増)、学卒未就職者が10万人(同2万人増)など。完全失業率の推移は4月より0.2ポイント上昇、特に男子は0.3ポイント悪化した。一方、就業者総数は5976万で、前年同月に比べ55万人(0.9%)増、主な産業別にみると、製造

業は61年度2.6%増に、16日、1～3月の国民所得統計速報(季節調整済み)を発表した。それによると、個人消費など内需の堅調と輸出の伸びに支えられ、国民総生産(GNP)は、実質で前期比1.2%増、年率換算した瞬間風速で4.9%増と、60年4～6月の5.7%増以来、7期ぶりの高い伸びとなり、昨年来続いてきた円高不況のトンネルにも出口が間近いことを示唆する内容となった。経企庁は、「数字を見る限り、景気は底入れしたと判断できる」(調整局)として

おり、今秋以降、6兆円規模の緊急経済対策の実行を控えている点を考え合わせ、62年度の政府経済見通しである実質3.5%成長の達成に自信を深めている。一方、61年度全体では、年度を通じた円高の打撃が大きく、実質成長率は2.6%と49年度のマイナス0.4%以来12年ぶりの低水準にとどまり、政府の実績見込み3.0%を下回った。

(読売 6月17日付)

非製造業は60.1%と少ない。全体の20.7%が連続して7日以上の休暇を実施、32.9%が何回かに分けて通算7日以上休暇がある。休みの時期は8月中旬に集中しており製造業の77%、非製造業の69.1%がこの時期に予定、次いで7月下旬から8月上旬を休みとする企業が多い。休暇の内訳は特別休日に土曜、日曜などの週休日、振替休日をうまく組み合わせる企業が大半。

(日経 6月28日付)

業が1410万で前年同月比21万人(1.5%)減少し、依然として不振が続いているほか、農林業も499万で前年同月比17万人(3.3%)減となっている。他の産業は卸売・小売業、飲食店が1391万で前年同月比44万人(3.3%)、サービス業1257万で同49万人(4.1%)、建設業527万で3万人(0.6%)それぞれ増加した。5月は年度末の一時的な失業増も一服することから例年失業率は低下する傾向にある。それだけに総務庁は今回の事態を深刻に受け止め、警戒を強めている。(日経 6月30日付)

県内の動き

●県民の65%が余暇を活用

茨城県がまとめた61年度の県政世論調査の結果によると、県民の余暇の活用状況は、全体の65%までが「活用している」と答え、「活用していない」の31%を上回った。余暇施設の利用度が高かったのは、公民館、集会所、文化センター、文化会館で今後整備を希望する施設としては、スポーツ施設、公園、動物園、キャンプ場などが挙げられている。

この調査は、61年7月に県内成人1,500人を対象に実施した。回収率は81.7%、余暇時間は平日「2～3時間」休日

●8割の企業が円高影響

茨城県商工労働部が今年3月下旬に実施した円高影響調査によると、悪影響を受けている製造業者の割合が前回(昨年9月)に比べて増えていることがわかった。資金繰りの悪化を訴えたり、人員整理に踏み切る企業も急増しており、円高による企業への打撃は一段と深刻になっている。

この調査は県内の従業員数4人以上の企業9千社が対象。往復はがきでアンケート調査した。回答企業は2千3社で、回収率は22.3%だった。円高により何らかの「悪影響を受けている」と答えた企業は82.0%で、前回の63.9%を上回

は「2～4時間」と「4～6時間」が一番多かった。全体の77%を占める4時間未満の人で男女差を比較すると、休日では「家族とのだんらん」「何もせずにのんびり」が多い。休日でも「テレビ、ラジオなど」が約半数を占めるが「飲食・ショッピング」の割合が増えている。

(日経 6月9日付)

った。業種別では、精密機械の全部、ゴム製品の96.3%、輸送用機械の95.9%、電気機械の95.3%が「悪影響」としている。一方、円高の恩恵のみを受けている企業は食料品、窯業・土石など全体の5.3%に過ぎなかった。仕事量が減っているのは全体の65.3%(前回は40.7%)。電気機械、精密機械、紙・パルプ、輸送機械が多い。

単価の引き下げがあったのは全体の54.4%(同39.0%)に上っている。資金繰りの悪化は全体の23.4%が挙げており、前回の8.8%の3倍に近い。(日経 6月25日付)